



ぱれっと



今月の表紙写真

長船地区で
育てたヒマワリ
「ビンセントオレンジ」。
つぼみの状態を細かく
見極め、収穫タイミングと
冷蔵管理を徹底し、「手に
した人を笑顔に!!」との
思いを込めて栽培し
ています。

特集

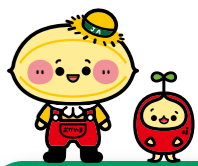
JA岡山中期計画の取り組み 【令和7年度 実践概況報告】

岡山のがんばる農業者をご紹介

農を担う

御津地区 米麦農家
藤元 雄志 さん

10ページ



JA岡山中期計画の取り組み

〔令和7年度実践概況報告〕

当JAは、令和7年度の通常総代会で設定した「JA岡山中期計画」に基づき、同年度から令和9年度までの3カ年において、その取り組みを進めています。

中期計画では、第36回岡山県JA大会のメインテーマ「組合員・地域とともに歩む」に向けて、6つの重点取組事項を策定しています。その取組結果については、年度ごとの進捗管理や実践状況を検証し、広報誌等を通じて組合員・利用者の皆さまへ情報発信することとしています。

今月号では、3カ年計画の初年度(令和7年度)の実践概況をご報告させていただきます。



1 農畜産物の生産振興



① 特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大

生育ステージごとにザルピオ(栽培管理支援システム)活用資料を作成し、アカウント連携先へのザルピオ活用提案を行いました。
・水稲の高温障害対策として、ザルピオを活用し、画像診断に基づく分析調査を行いました。(3品種)
・宮農センターごとに「きぬむすめ」の目標面積を設定し、作付推進に取り組みしました。
令和8年度作付け見込みは「こまる」93.8畝(目標対比114%)、「きぬむすめ」35.8畝(目標対比137%)となりました。
・宮農センターごとに「つやきりり」の目標面積を設定し、大型農家、担い手経営体への推進を図り、令和7年度計画に基づき普及拡大に取り組みしました。
「つやきりり」の栽培適性検証を目的に直播栽培適正試験、多収性の検証を目的に多肥栽培試験

に取り組みしました。試験結果を踏まえ、「令和8年度つやきりり栽培のしおり」を作成しました。
令和9年度つやきりりの水稲種子採種圃を設置し、生産供給体制を確立しました。
(生産計画面積：4500㎡)
令和7年度「里海米」の集荷実績は27,652俵でした。

(前年対比192% 目標対比173%)
・酒造好適米出荷枠に満たない不足分について、各地区の酒造好適米部会に依頼し、出荷枠拡大を図りましたが、夏場の異常気象による収量減と米価高騰による実需の買い控え等により出荷枠に影響し、集荷実績は23,348.5俵でした。

(前年対比109% 目標対比97%)
施設の荷受計画に基づき、計画的に「きぬむすめ」の施設受入を行いました。(建物ライスセンター)
・高温耐性品種の荷受体制の検討を行い、令和8年度「こまる」の受入先をこれまでの4施設(桑野RC、松新CE、邑久CE、加茂川RC)

② 需要に応じた麦類の生産振興

関係機関および宮農センターと連携し、大麦の粗タンパク含量の低い生産者に対して追肥(美肥)指導を行いました。
グリーンファーム岡山において、小麦の粗タンパク含量の低い生産者に対して「実肥実施報告書」の提出を求め、実肥施用を徹底しました。
小麦の粗タンパク含量向上に向けて、ザルピオを活用した画像診断の分析結果から実肥施用量を判断するための実証圃を設置しました。
関係機関および宮農センターと連携し、粗タンパク含量の測定や農産物検査品位格付の統一を図り、ビール等級の積み上げを行いました。

小麦新品種「せとぎらら」について、実需者との協議のもとで生産目標を設定し、生産量を確保しました。
【令和7年度実績】
生産者5名(前年対比100%)
栽培面積26.7畝(前年対比130%)
出荷量15.2t(前年対比122%)

次年度産の生産に向けて実需者と協議を行い、令和8年度産播種前契約数量を確保しました。(200t)
「せとぎらら」の取扱業者2社と商談を行い、令和9年度以降の契約数量について検討を行いました。

環境負荷軽減および環境循環型農業の普及拡大に向けて、宮農振興支援事業を活用し、「里海米」緑肥作物「天敵農薬」などの導入支援に取り組みしました。

水稲用・麦用ノコト肥料被覆プラスチック(水稲2銘柄、麦1銘柄)
施設出対策の実証試験に取り組みしました。

和牛繁殖経営の安定
関係機関と同行し、「おかもや四ツ☆子牛育成マニュアル」を活用した飼養管理技術指導、県の基幹種雄牛を活用した交配指導を行いました。年間出荷頭数241頭のうち、31頭の「おかもや四ツ☆子牛」を市場へ出荷しました。(出荷率13%)

販売力の強化と販売体制づくり
重点取引市場9社(東京青果、東京シティ青果、横浜丸中青果、京都青果合同、大果大阪青果、大阪中央青果、岡山丸果、岡山大同青果、広島青果)との連携強化を図り、青果物の有利販売に取り組みしました。

米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくり
JA岡山米の安定取引と高値販売に向けて情報

地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産
次年度の果樹苗木を確保するため、11月に苗木の予約注文の取りまとめを行い、主要産地での改植と生産拡大につなげました。

持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化
宮農振興支援事業を活用し、野菜重点振興品の作付拡大に向けて提案型の作付け推進を行いました。

夏秋なす栽培体験会を開催しました。(10・11月：2会場)
アスパラガス栽培体験会を開催しました。(12月：1会場)
果樹苗木の注文を取りまとめ、主要産地での改植と生産拡大につなげました。

令和7年度納品結果
ブドウ

品種	本数	面積換算
ピオーネ	269本	2.1ha
シャインマスカット	195本	1.5ha
オーロラブラック	42本	0.3ha
紫苑	25本	0.2ha
合計	531本	4.1ha

モモ

品種	本数	面積換算
清水白桃	343本	2.7ha
おかもや夢白桃	37本	0.3ha
白皇	15本	0.1ha
白凰	73本	0.6ha
冬桃がたり	6本	0.1ha
合計	474本	3.8ha

JA岡山米の安定取引と高値販売に向けて情報



重点取引市場9社(東京青果、東京シティ青果、横浜丸中青果、京都青果合同、大果大阪青果、大阪中央青果、岡山丸果、岡山大同青果、広島青果)との連携強化を図り、青果物の有利販売に取り組みしました。

米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくり

新たな販売流通の仕組みづくり

JA岡山米の安定取引と高値販売に向けて情報

重点取引市場(9社)年間取扱高【出荷量：7,239.7t】
・重点取引市場9社(東京青果、東京シティ青果、横浜丸中青果、京都青果合同、大果大阪青果、大阪中央青果、岡山丸果、岡山大同青果、広島青果)との連携強化を図り、青果物の有利販売に取り組みしました。

② 青果物の集荷率向上とスケールメリットを活かした販売流通

重点取引市場(9社)年間取扱高【出荷量：7,239.7t】

重点取引市場(9社)年間取扱高【出荷量：7,239.7t】

重点取引市場(9社)年間取扱高【出荷量：7,239.7t】

**③ 農産物直売所の販売機能の強化と
店舗を基軸とした「地域農業の
活性化」とにぎわいの創出**

・はなやか産直まつり、店舗ごとの各種イベントやミニセールを開催し、集客力向上につなげ、店舗ごとの売上増を図りました。
・委託品の不足時には買取品の仕入れを増やすなど、バランスの取れた品揃えの充実を図り、魅力ある店舗づくりに取り組みました。
・はなやか中央店の改修工事を行い、精肉・鮮魚コーナーのレイアウト変更による出入口付近の混雑緩和と鮮魚コーナーの天井と床の修繕により衛生管理に努め、顧客満足度向上に取り組みました。
・地元大学の課題解決型学習の一環で、はなやか中央店の出荷会員、委託輸送会員向けに生産者アンケートを実施し、生産現場の課題等を把握し、今後の店舗運営の参考としました。

**「食」と「農」を基軸とした
地域コミュニティの活性化**

・インターネット販売「はなやかオンライン」により、モモの主力品種の「清水白桃」「白鳳」、ブドウの「オーネ」「シャインマスカット」などの販売と併せて精肉、6次化商品の販売を行いました。
【販売実績】(税込)
9,726千円(前年対比87%)
・新規出荷会員の確保と委託輸送の拡充による直売所店舗の機能強化に取り組みました。
・広報誌「はれっと」へ会員募集を掲載し組合員への情報発信を行い、農産物直売所新規会員ならびに委託輸送会員の増員を図りました。
【令和7年度出荷会員総数】
合計3,008名
(前年2,968名 前年対比102%)
【委託輸送出荷会員】
【令和7年度はなやか中央店委託輸送会員総数】
359名
(前年249名 前年対比144%)

3 営農指導体制の充実

**① 営農指導の充実による
「よりよい営農活動」の実践**

・7営農センターで32名のTAC指導員を任命し、指導体制の充実を図りました。
・全農と連携し、肥料・農薬メーカーとの同行訪問(商品紹介)を通じて、担い手農家等への情報提供を行いました。(7営農センター544件・前年対比134%)
・TACリーダー会議(1回/月)を開催し、本所と営農センターとの営農指導にかかる連携と情報共有を図りました。
・JAGグループがすすめる「よりよい営農活動」の実践と人材育成に向けて、関係機関の協力

【令和7年度農産物直売所販売実績】

販売金額(税込)	2,533,107千円 (前年対比109%、計画対比115%)	来客数	1,027,454名 (前年対比101%)
店舗名	販売金額(税込)	来客数	
はなやか一宮店	137,833千円 (前年対比99%、計画対比98%)	60,685名 (前年対比100%)	
はなやか東店	260,670千円 (前年対比101%、計画対比101%)	170,433名 (前年対比97%)	
はなやか中央店	1,627,529千円 (前年対比116%、計画対比116%)	487,776名 (前年対比103%)	
はなやか瀬戸内店	351,490千円 (前年対比104%、計画対比104%)	103,729名 (前年対比100%)	
一本直売所	151,287千円 (前年対比103%、計画対比103%)	103,688名 (前年対比104%)	

【店舗別内訳】

のもと、GH(グリーンハーベスター)農場評価員養成講習会を開催し、営農指導のスキルアップに取り組みました。
(18回開催 計13名:各営農センター11名、本所2名)

② 営農振興計画実践状況の見える化

・管内の地域農業の現状把握と課題解決に向けて、営農振興計画に基づきTAC指導員課題実践活動の目標設定を行いました。(32課題:TAC指導員32名)
・営農振興計画実践報告会を開催し、TAC指導員課題実践状況の把握と実践活動の見える化に取り組みました。

**4 「食」と「農」を基軸とした
地域コミュニティの活性化**

**① 女性部・生産者組織・青壮年部や
行政・企業と連携し食農教育の場を
つくり、地元農産物への理解促進や
消費拡大に取り組みます**

・食農教育イベント「家族でチャレンジデイキャンプ」を開催しました。
【年間実績】
開催日:令和7年10月11日
開催場所:岡山市立少年自然の家
参加人数:31名(11家族)
開催内容:①調理体験(カレー作り)
②野菜栽培体験③食農クイズ等
・女性部との連携により「ちやぐりんフェスタ」を開催しました。
【年間実績】
開催会場:高島、一宮、福田、旧妹尾事業所、興除、藤田、備前、上道、岡山、御津、吉備

**5 総合事業を通じた生活インフラ
(生活基盤)機能の発揮**

**① 住民に様々なサービスを提供し、安心
して暮らせる地域づくりに貢献します**

・住宅ローン相談会、各種相談会をグループ単位で開催し、保障見直し相談会を同時に開催することで顧客のニーズに応じた提案活動を行い満足度向上を図りました。
・年金相談会をグループ単位で開催し、組合員・JA利用者が社会保険労務士へ直接相談できる年金相談会を実施しました。
・税務相談会(定例)を毎月2回の計18会場で開催し、8会場で17組の相談に対応しました。

長船(12会場)
参加人数:3288名
開催内容:料理、収穫体験、工作、野菜栽培、食農クイズなど
・地域内交流会を通じて、伝統食や地産地消の大切さについて女性部、青壮年部で情報共有するなど、地元農産物への理解促進や消費拡大に取り組みました。

**② 地域とのふれあいや地産地消と農家所得
の向上のため、農産物直売所を基軸とし
たイベントを開催し、地域住民との交流
により「にぎわいの創出」に取り組みます**

・はなやか産直まつり(9/6・7・12/6・7)
・店舗イベント(ミニセール)
・母の日セール(5月)、父の日セール(6月)、お盆セール(8月)、お彼岸セール(9月)、歳末セール(12月)、お彼岸セール(3月)

**② 組合員や地域住民が健康で安心して暮
らせるよう健康寿命を創造する「JA
健康寿命100歳プロジェクト」を実践
するとともに、「行政・他団体との連携
により高齢者支援に取り組みます**

・実施支所等でのポスター掲示により受診者を募り、各地区において各種健診を実施することで、組合員の疾病の早期発見など健康増進活動に取り組みました。
【年間実績】
24会場・受診者8016名(動脈硬化症健診含む)
※1回あたり平均34名となり目標の25名以上となりました。
・助け合いの会「かがやき」との連携により各地域で「ミニサービス・サロン」等を開催し、「JA健康寿命100歳プロジェクト」を実践するとともに、高齢者の生きがいと交流の場を提供することで高齢者支援を行いました。
【年間実績】
ミニサービス
11回:利用者220名(協力会員37名)
サロン
70回:利用者960名(協力会員230名)
みんなのお家(つづ)
30回:利用者205名(協力会員101名)

**6 支所などを拠点とした
「JAくらしの活動」の実践**

**① 支所・営農センターを拠点として、
地域特性をふまえたニーズ、ライフ
スタイルに応じた「JAくらしの活動」
を実践し、組合員や組合員家族、
地域住民とともに地域を元気にする
活動に取り組みます**

・女性部との連携による「ちやぐりんフェスタ」の開催や支所・営農センターだよりの発行、地域との連携による農業体験など、年間を通じてくらしの活動の実践に取り組みました。
【年間実績】
地域ふれあい活動
112件
・営農センターを含む8グループがそれぞれの地域の特徴を活かしたイベント等を計画し、地域とのふれあいやJAとのつながり強化を通じて組合員や組合員家族、地域住民とともに地域を元気にする活動に取り組みました。

**7 正・准組合員との
メンバーシップの強化**

**① 地域住民の協同組合への理解を深め
る活動を展開し、女性部組織などの
活性化に取り組みます**

・地域内交流会やイベントの開催など、場の設定により、部員間の交流を深め、女性部組織の活性化に取り組みました。
女性部員2,036名
【内訳】
女性部19支部2,036名
(うちフレッシュユニス3支部33名)
・フレッシュユニス交流会の開催や広報誌「はれっと」ならびにSNSの活用による食農教育を中心とした活動紹介を行うことにより、フレッシュユニス活動への理解を深め加入促進を行いました。部員数は減少となりました。
フレッシュユニス部会
【令和6年度】4支部42名
【令和7年度】3支部33名

**② 次世代を担う女性リーダーを
育成するとともに、新たな
JAFファンづくりに取り組みます**

・女性大学(きらめ輝力レジン)を開催し、次世代を担う女性リーダーを育成するとともに、新たなJAFファンづくりに取り組みました。
【年間実績】
全3講71名(延べ人数)

**③ 地元生産者と女性部の連携による
活動を発信し、地元農業応援
づくりに取り組みます**

・JA岡山広報誌「はれっと」の「農を担う」コーナーで生産者取材し、農業への取り組みを紹介しました。
「はれっと」のくらしの活動報告や「JA岡山助け合いの会かがやき」コーナーで、女性部の各支部活動を紹介しました。また、編集後記にて株式会社JA岡山設立や「JA岡山合併25周年記念リレーマラソン」等を取り上げ、これまでの歩みを広くPRしました。特に3月号では、特集記事「JA岡山合併25周年を迎えて」を掲載し、当JA役員と生産者代表、青壮年部部長との座談会を実施し、JAの歴史と未来に向けた思いを発信しました。
「はれっと」4月号よりデザインを一新し、イラストや写真を大幅に拡充することで、視覚的な読みやすさと親しみやすさを向上させ、読者がより手に取りたくなる誌面づくりを実現しました。
・笑味ちゃん天気予報に出演した生産者や農産物を使用した料理のレシピ動画、イベント開催告知等を、インスタグラムに241件投稿しました。

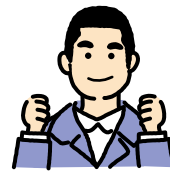
**④ JA利用者に准組合員加入を働きかけ、
「地域農業振興の応援団の拡大」に取り組みます**

・ありがとうキャンペーン等、信用事業と連携した加入促進活動を実施しました。
・邑久グループの地域ふれあいイベントにて、JA岡山紹介チラシの配布や、ローンの相談等を通じて出資の加入推進に取り組みました。

**⑤ 男女共同参画社会形成のため、女性活躍
を含む多様性の推進に取り組みます**

・令和8年2月2日に「男女共同参画のつどい in 岡山」を開催し、男女共同参画に関する理解を深め意識の醸成と定着を図りました。





この季節の
天候の変化に
注意しましょう

営農部指導課 祇園 将人

今月の主な作業はブドウの袋掛け・モモの収穫・柿の最終摘果・ミカンの摘果等があります。

昨年は早くに明けましたが、例年7月中・下旬には梅雨明けとなり、夏季の高温乾燥期に入ります。急激な天候の変化で樹勢や果実品質の低下が懸念されます。果樹や野菜で起こる果実の裂果の一番の原因は、土壌水分の急激な変化です。極端に乾燥している状態で大雨が降ると裂果してしまいます。毎日の天気予報を確認し、晴天が続く場合は、灌水を行うなど土壌水分の変化を軽減するよう柔軟な対応を心掛けましょう。

また、夏になると夕立があります。梅雨時期にも雨が降っていますが、今一度明きよ(溝)を確認し、水が園地に溜まらず排水できるようにしましょう。

ブドウの管理

ブドウの摘粒は早めに行うと花粉(ブルーム)が多く残ります。なるべく早めに仕上げるようにし、遅くても果粒軟化期(着色始め)までには終わらせましょう。房の大きさは、大房にするとピオーネ等の着色ブドウでは着色が劣り、シャインマスカット等の青系ブドウでは糖度の上がり劣ります。600g程度の房になるよう、あまり大きくならないように注意しましょう。

また、玉直しを行う場合には果粒軟化より前に行います。内側に潜り込みそうな粒を外に出して揃えましょう(資料11)。果粒軟化期以降になると、果梗が固くなり、粒が外れてしまうため、遅くなった場合は玉直しは行わないようにしましょう。摘粒・玉直しを行ない果粒軟化期を迎えたら最終着果量を確認し、多い場合は

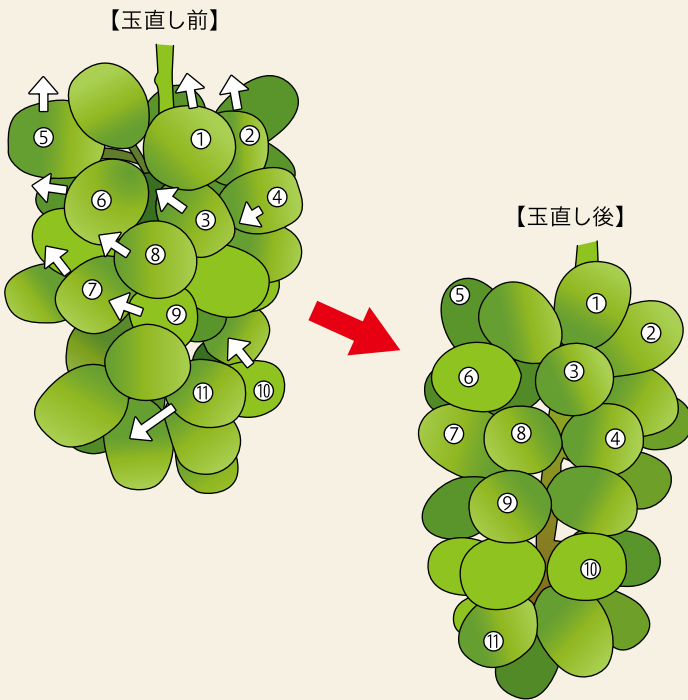
房を落として、袋掛け前の防除を行い、早めに袋掛けを行いましょ。

モモの管理

モモでは、梅雨期後半に樹冠内部が薄暗くなり受光態勢の不良な園が見られます。薄暗くなると果実品質が低下します。特に生理的落果が多く結実不良樹では枝葉の伸長が旺盛になっているので、あまり茂りすぎている場合は木洩れ日が入る程度に内向枝や徒長枝を10%程度残して切除します。

収穫は6月下旬の「はなよめ」から順次始まります(資料12)。果皮の緑色が

資料11 シャインマスカットの玉直しの実施例



薄れ、地色が白色になった頃、果実に傷を付けないよう慎重に収穫を行いましょ。モモは収穫期間が短いので取り遅れないよう注意しましょ。

柑橘類の管理

7月上旬に生理的落果が終わります。実どまりが確定した7月下旬から順次摘果作業を行います。最初に行う摘果を粗摘果(7月中旬〜8月上旬)といいます。

この頃の摘果はまだ果実が小さく、傷等が分かりにくいのですが、早くに摘果を行うことで樹への負担を減らし、残された果実の肥大だけでなく隔年結果を是正

資料12 収穫期の目安

品種	満開から収穫までの日数
加納岩白桃	満開後91~100日
白鳳	満開後101~110日
清水白桃	満開後111~120日
白麗	満開後121~130日

※今年は一宮地区で清水白桃の満開が4月2日

する効果があります。成りが多い場合は、果実が集中してついている所や、日の当たらない中の方になっている果実、地面に付きそうな果実等を間引きます。

次に行う摘果が仕上げ摘果(8月中旬〜9月下旬)です。この頃になると果実が肥大し、病害虫被害等もよく分かるようになります。傷果や小玉果を間引き、全体の果実品質を揃えていきます。

最後に行う摘果が樹上選果(10月)です。こちらは収穫前に最後の確認として、間引きを行います。傷果等を畑で間引き落とすことで、収穫後のよし悪しを確認する選果作業の労力軽減につながります。

農を担う

未経験から3年目

畑と向き合い、自分らしい農業を模索する



御津地区
米麦農家

藤元 雄志さん

ふじもと ゆうし
平成7年生まれ。
米麦以外にも野菜、シャインマスカットを栽培。
父・母、妻、子ども1人の5人家族。
父と従業員6人ほどで農作業をしている。
休日は子どもと遊ぶのが一番の楽しみ。
お酒を飲むことも好きで、
父と飲みに出かけることも多い。

GPSで位置情報を正確に把握し、走行を自動制御してくれます。

ハンドルから手を離しても真っすぐ植え付けることができます。



水の量がバッチリ！植え付けがきれい！など、整ったほ場になると気持ちが良いと語る藤元さん。

5月22日、御津地区の藤元雄志さんにお話を伺いました。

就農したきっかけは？

農作業は幼い頃に手伝い程度で触れたことはありませんでしたが、本格的な農業経験はありませんでした。その後、建築関係の専門学校へ進み、現場監督として働いていました。折に触れて父から「いつかは農業を継いでほしい」と声をかけられていましたが、正直なところ、農業には全く関心がありませんでした。

転職が訪れたのは、仕事を通じて会社の方針に疑問を抱き始めていた時期です。ちょうどそのタイミングで

農業という「総合職」への挑戦 農業を始めてからは？

父から「そろそろ一緒にやらないかと改めて誘いを受けました。それまで農業という選択は頭になかったはずなのに、自然と「やってみよう」と前向きに受け止める自分がありました。

就農して今年で3年目、今はまだ日々農業の基礎を学んでいる段階です。前職の現場監督時代は周囲へ指示を出す立場でしたが、農業の世界では何もかもが初めて。草刈り機ですら使えない状態でした。農業はまさに「総合職」と言われる通り、覚えるべきことが山積みで、思うようにいかず、父に叱られることもしょっちゅうです。それでも、機械の操作や全体の段取りが少しずつ分かるようになり、できる作業が増えていくことにやりがいを感じています。

日々の仕事で意識していることは？

まずは土づくりです。冬の間はどれだけ丁寧に耕して準備できるかが、その年の作物を左右すると考えています。ただ、深く耕せば良いというわけ

ではなく、浅いほ場もあれば水はけや日の当たり方も場所によって違います。全てのは場で同じ管理をするのではなく、一つひとつの特徴や癖を丁寧に見極めていくことが不可欠です。昨年は管理するほ場が300カ所近くもありました。それぞれの特性をしっかりと把握した上で、酒米に適しているのか、うるち米が良いのか、あるいは植える時期をどう調整すべきかなど、それぞれの個性に合わせた管理方法を、一つひとつ見極めるよう意識しています。

一歩ずつ、父の背中を追って 今後の抱負は？

まずは一日でも早く仕事を覚え、自分で考え行動できるようにすることが目標です。農作業は大変ですが、手かけた分だけ結果となって返ってくることに、この仕事の醍醐味を感じています。一つひとつの技術を習得することは今の自分にとって大きな課題ですが、早く吸収して自分のものにできれば、これからの作業はもっと楽しく、効率的になると信じています。

自分のやり方ひとつで畑の様子が変わっていくのも、農業ならではの



共に汗を流し、農作業に励む藤元親子

面白いです。今はまだ修行の身ですが、知識と経験を積み重ね、いつの日か父の背中に並べるよう、精一杯取り組んでいきたいです。
聞き手…JA岡山広報担当



my favorite item
景品でもらったお気に入りの帽子と、日差しに弱い私の必需品であるサングラス。最近はこのセットを愛用しており、日々の畑仕事に欠かせない大切な相棒です。



お気軽に
お問い合わせ
ください
営農部指導課
☎086(225)3224

カラフルな色の
夏の葉物野菜
“スイスチャード”

営農部指導課 岸野 真美

野菜

スイスチャード(ふだん草)



栽培について

スイスチャードは、ホウレンソウに似た葉菜で、和名は「ふだん草(不断草)」で、「つまい菜」も同じ仲間です。葉柄と葉脈が赤色、黄色、白色のカラフルな色合いで、あえ物、おひたし、油いため、若いうちに収穫してベビーリーフをサラダなど、幅広く利用できます。また、きれいな色合いは、お庭に観賞用として栽培されることもあります(資料1)。

畑の準備と種まき

スイスチャード(ふだん草)は酸性土壌ではうまく生育できません。播種の2週間くらい前に10平方メートルあたり苦土セリカ2号等を1キロと堆肥20キロを施用し深く耕しておきます。

1週間前には10平方メートルあたり化成肥料(JA岡山専用有機肥料等)を500g施用し、土とよく混和して、畝幅70センチ、畝高15センチを作り、条間30センチの2条植えとします(資料3)。

種子は、複数の種子が入った「種球(じゅぎゅう)と呼ばれる形状で1粒の種球から2〜3本の芽が出る場合があります。

また、種子の果皮が固いので、種まきの前に一晩水につけると発芽しやすくなります(資料4)。

ほ場に直播きする場合は、深さ約1センチのまき溝を作り、種子を約3センチ間隔のすじ播きにします。覆土をしたら軽く鎮圧し、たっぷり水をやり、発芽するまでは土を乾かさないように気を付けます。

ほ場が離れていて、毎日の水やり等の管理が難しい場合は、セルトレイで育苗し定植すると良いでしょう。128穴のセルトレイに1粒ずつ播種します。1つの種から2〜3つの芽が出た場合には、本葉2〜3枚で1本立にして、本葉が4〜5枚になった頃に15センチ間隔で本圃に定植します。植え付けは夕方涼しい時間に行いましょう(資料5)。

追肥と間引き

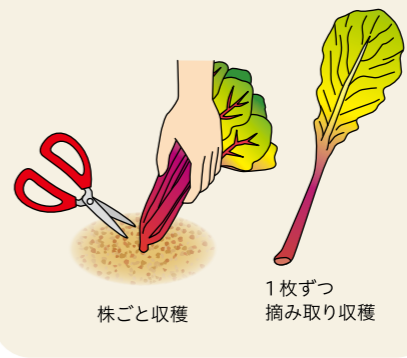
ほ場に直播きした場合は、本葉が3〜4枚頃までに株間5〜6センチくらいに間引き、生育するにつれて間引きをすすめ、最終株間が15センチほどになるようにします。間引きの際は、残す株の根を傷めないように、株元をハサミで切ると良いでしょう。間引いた葉はベビーリーフとしてサラダ等に利用できます。(ただし、農薬は使用できません)

追肥は、最終の間引きの頃に10平方メートルあたり化成肥料(JA岡山専用有機肥料等)を300g施用し、除草を兼ねて土と軽く混和します。

収穫

その後も収穫が続く場合は、2週間ごとに同量の追肥をしていきます。

資料6 収穫



1枚ずつ
摘み取り収穫

資料1 スイスチャード(ふだん草)



資料4 スイスチャード(ふだん草)の種子

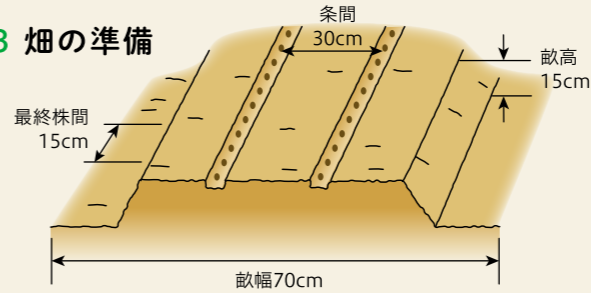


資料2 スイスチャード(ふだん草)の作型

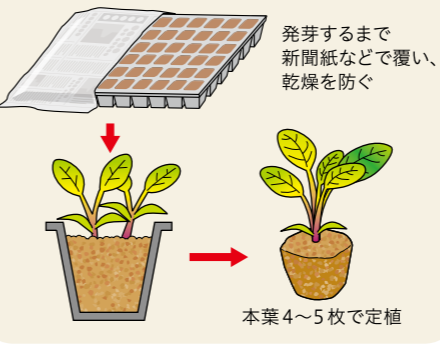
作型/目安	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春～初夏播き					●								
夏播き													
秋播き													

● 播種 ■ 収穫

資料3 畑の準備



資料5 育苗(移植栽培)



本葉4〜5枚で定植

花き

害虫



こんな虫も
花が大好き
お気を付けてください

営農部指導課 中川 雄一

きれいな虫なのに害虫?

○ラミーカミキリ(資料7)

最初の写真のバステルカラーのカミキリムシは、雑草のラミーに居るきれいなだけの虫。虫好きの子どもが喜ぶ発見です。ところが、この虫、アオイ科の植物も好物で、特にムクゲなど、時には木が枯れるほどの被害を受けることもあるそうです。同様に果樹やバラなどに幼虫が食い入って枯らしてしまうゴマダラカミキリも、黒地に白い斑点がたくさんある見た目のよい虫です。

その他のアオイ科の植物を例示すると、フヨウ、スイフヨウ、タチアオイ、ワタ、オクラ、ハイビスカスなど、枯らすまでに至らずとも葉や茎をかじっている例はあるようです。

タチアオイやオクラでは巻かれた葉の中で食害している虫がいますが、これはカミキリムシの幼虫ではなく、ワタノメイガという蛾です。

こちらも他のアオイ科植物でも注意が必要ですが。

○キクスイカミキリ(資料7)

7月にはあまり見当たりませんが、いつも4〜5月に、キクの新芽をかねて産卵する小さなカミキリムシです。背中のオレンジがアクセント!

産卵されたキクの茎は萎れ、孵化幼虫はさらに茎の下に入るので、その茎は付け根から切り捨てます。

○ツマグロヒョウモン(資料8)

こちらもきれいな蝶で、どこから飛んできたのだろうと思ったら、住み着いていたということがあります。この虫の食草はスマレ、畑の雑草のスマレがあったり、パンジーやビオラを植えこんでいた

資料7 左：アオイ科植物を食害するラミーカミキリ 他：春先のキクに産卵するキクスイカミキリ



キクの矢印部分に咬みあとがある、この位置に産卵している。右端はワタノメイガが巻き込んだオクラの葉

資料8 左・中：スマレを食い尽くすツマグロヒョウモン 右：ユリの害虫リリタテハの成虫



資料9 ウリハムシとキュウリの葉の食害痕 ハナムグリと被害バラ



資料10 害虫をやっつけてくれる生きもの達



ヒラタアブ類

ナミテントウ

シュレーゲルアオガエル?

りすると、産卵して幼虫が食べつくすほどになるかもしれません。

多くの蝶は雄の方が派手なのですが、この種は羽先に黒い模様がある目立つ方が雌で、雄は羽全部が目立たないヒョウ柄です。

そして幼虫は資料のようなオレンジと黒のケバケバしいものです。

隣の写真はユリやホトトギスの害虫として紹介したリリタテハ、こちらも幼虫は毒々しい見た目です。

○ウリハムシ クロウリハムシ(資料9)

ウリの害虫として悪名高いウリハムシ、実はアスターの花びらをよく食べます。

気付かずにいると花びらのないアスターになります。

近くにキユウリなどがあって、資料のようなかみあとがあったら急いで防除しましょう。

そしてあまり知られていないと思いますが、ナデシコ類の花は、よく似た羽が黒いクロウリハムシが食べます。早期発見、早期防除が必要です。

害虫ではありませんが

○ハナムグリ(資料9)

コガネムシに似た小さな虫が花に潜っていることがあります。

コガネムシ類は成虫、幼虫ともに農作物の害虫ですが、ハナムグリは花粉や蜜が目的の虫で加害はしません。それでもバラなど好みの品種にはよく潜って花び

らを足で傷めてしまいます。

同じように、クマバチなどは花粉や蜜を求めて花に食い入り、その結果傷めてしまうことがあります。

○害虫を食べる生きもの(資料10)

・ヒラタアブ類 ナミテントウ 華奢なハチのように見えるヒラタアブは幼虫がアブラムシなどを食べる益虫です。テントウムシダマシと見分けにくい姿ですが、ナミテントウもアブラムシなどを食べる益虫です。ナミテントウにはさまざまな模様の変異があります。

・カエル 花の中にニホンアマガエルを見かけることがよくあります。

写真はシュレーゲルアオガエルと思われませんが、カエルやクモも害虫を捕まえてくれるありがたい存在です。

建部営農センター今月の推し!

ピーマン
を使って

ピーマンとカニカマの マヨネーズサラダ

JA共済の
地域貢献活動

©2017 JA-KYOSAI

材 料 (3~4人分)

ピーマン	5個
塩	小さじ1/2
カニカマ	50g
マヨネーズ	大さじ1
かつお節	適量

作り方

- ①ピーマンを縦半分切ってへたと種を取り、繊維を断ち切るように横向きに千切りする。塩を振って軽くもみ、15分ほど置いておく。
- ②カニカマを2cm幅に切り、ほぐしておく。
- ③ピーマンの水分を手でしぼり、カニカマとマヨネーズを加えて混ぜる。
- ④器に盛りつけ、かつお節をトッピングしたら完成!

point /
水っぽくならないよう、
ピーマンの水気はしっかりしぼりましょう



新鮮なピーマンは **生もおすすめ!**
お子さまにも **good** な一品です

編集後記

あぐろぐらむ



ご応募をお待ちしています

7月でJA岡山公式キャラクター「もみー」と「めぶたん」が誕生して1周年を迎えます。もう皆さま、様々な場面で出会っているのではないのでしょうか。

「ぱれっと4月号」でご案内したイラスト&ぬりえ大募集に、ただいま5歳から100歳の方まで、楽しいご感想と一緒にご応募をいただいております。「ぱれっと」が幅広い年齢層の方にご愛読いただいていること、「もみーとめぶたん」が皆さまに愛されていること、大変うれしく思います。

ぬりえはJA岡山ホームページからダウンロードしていただけますし、思い思いのかわいいイラストも募集しています。皆さまから届いた作品は「ぱれっと11月号」の紙面で、できる限り掲載させていただこうと思っておりますので、たくさんのご応募をお待ちしております。

編集担当 難波 昭浩



こちらのQRコードより
ぬりえを
ダウンロードして
いただけます



広報誌「ぱれっと」意味

水彩画や油絵を描くときに絵具をまぜあわせて色をつくる板のこと。特色ある地域の様々な情報をうまく調和させながら、地域と共に歩むという願いがこめられています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JA岡山は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。